

体育会学生の就職活動に関する研究

1220401 青木優実

指導教員 坂本泰祥

研究背景

一般的に「体育会学生は就職活動に強い」と言われている。しかし、先行研究では体育会に所属していることが就職活動に於いて有利であるかを検証し、「体育会学生」がその他の学生と比較して有利であるという結果は示されていない。

研究目的

そこで本研究では、就職活動に於いて体育会に属することが有利に働くのかを明らかにすることを目的とする。その際に、学生を「体育会運動部所属学生」、「体育系サークル所属学生」、「文化系所属学生」、「無所属学生」の4つの群に分類し比較することで、就職活動が有利となるのは、「体育会の力」、「スポーツの力」なのか、或いは「組織に属することの力」なのかを合わせて明らかにする。

調査・分析方法

まず先行研究調査を行い、先行研究における問題点を明らかにした。その結果に基づき、アンケート調査を実施した。そのアンケートには、3件法による定量的調査と、就職活動に於ける実態を分析するために自由記述による定性的な調査を合わせて行った。それらを「体育会運動部所属学生」、「体育系サークル所属学生」、「文化系所属学生」、「無所属学生」ごとに集計を行い、差異を明確にした。

分析結果

分析の結果、定量的な調査では群間に差は確認できなかった。しかし、定性的調査では「属していてよかったと思うこと」に於いて、「体育会運動部所属学生」からは他の群には上がらなかった多数の意見が挙げられた。例えば、「目上の方への接し方がすでに身に付けられており、面接に余裕を持って挑めている」といった意見が挙げられていたことが確認できた。

考察・結論

就職活動の結果に対して、「体育会が就職活動に有利」という事実は発見できなかった。しかし、就職活動のプロセスに焦点を当てると、体育会に所属していることが心理的に有利に働いていると考えられる。以上のような研究を通じて、本研究では次のことが言える。

- ・先行研究と異なり、就職活動のプロセスに於いて体育会に属することが心理的に有利に働いていることが明らかになった。
- ・そういった面も考慮すると、体育会学生とその他の学生に全く差がないわけではないという新たな知見を得ることができた。